

【20 期生 岡木宏之】



20期生の岡木宏之と申します。同級の深田さんよりご紹介いただきました。

ブドウ農園の長男として生まれ、高校時代はテニス部で汗を流し、文化祭ではバンドでギターを弾くなど、仲間と過ごしたことを懐かしく思います。

【現在はブドウ農家として仕事をしています】

群馬県の市立高崎経済大学を卒業後、県内の金融機関に就職しました。会社ではお金を通して見える社会の形、人の生活、商売の方法を実体験として学びました。

中小企業の課題解決を行う傍ら「親の作っているブドウが名の無いまま売られている状況を変えたい」という想いが募り、実家の農園のHP作成や販路開拓など農園のブランディングを行いました。農園の販路も広がってきた2019年3月に8年間勤務した会社を退職。現在は両親、妻、子供に囲まれながらブドウの生産販売を行っています。

【身近な課題解決が多くの人に届く】

就農してからいくつかのプロジェクトを行いました。1つ目は「低アレルギースイーツ開発」、2つ目は「ブドウの粒売りプロジェクト」、3つ目は「オンラインブドウ狩り」です。プロジェクトの発端はどれも身近な課題解決です。

1つ目は、卵アレルギーのある長男と一緒に「シャインマスカットを使ったデザートを食べたい」との思いから低アレルギースイーツを開発しました。開発に際し長野県立大学、保育園、お菓子屋さんと提携、ながの東急百貨店等での販売を行いました。学生は県庁で記者会見も行うなど学びの多いプロジェクトとなりました。



2つ目は、ブドウは一般的に房売り・高価格が当たり前のなか、少量、低価格で販売し多くの人に食べてもらいたいとの思いと、ゴミ問題に取り組む県立長野高校の生徒との出会いから「脱プラパッケージの開発」を行いました。SDGs やフードロスの取り組みとして無印良品銀座店で販売、多くの反響を得ました。



3つ目は、県外に住む妻の祖母にブドウ狩りを体験してほしいとの思いと、コロナ禍での新しい体験提供をしたいとの思いで岡木農園と横浜のITベンチャー企業で共同開催し、全国的に注目いただきました。



こうした活動から、現在は国から「次世代リーダーとなる農業経営者」として推薦され、国の農業政策に対して意見交換、政策提言を行う予定です。

【在校生へのメッセージ】

私自身、高校時代を振り返ると「頑張れない自分に失望し、現実から目を背ける」実はそんな劣等感を持っていました。

プロジェクトを通して学生と接する中で、昔の私と同じように劣等感を抱えている学生が多いと感じ、共感するとともに「皆、考え方を変えてみよう！」と思っています。

高校を出て必要なのは【自分でできないことを認めた上で、できる人をお願いする能力】です。そんな人が今、時代を作っています。僕もそうです。

小さい頃から、苦手なこと、できないことを「もっと頑張れ」「諦めるな」と教わった人も多いと思います。それも大事ですが、かえって自身の劣等感を増幅してしまう可能性もあります。抱えている劣等感を克服する為の努力は非常に困難なことです。

今の行動範囲には友達、先輩、後輩等がいます。でも、学校生活よりも社会生活のほうが遥かに長い。日本は、世界はもっと広い。これから新たに出会う人の数のほうが多いのです。周りと自分を比較しすぎないでほしいのです。皆さんには絶対に長所があります。得意なことがあります。だから、「今」を受け入れて自分らしくいてほしいのです。

これをご覧になっている OBOG の皆様、在校生の方々と一緒に楽しいプロジェクトをできる事を楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します！！